

■『大麻解禁の真実』（矢部武・著 宝島社）

矢部武さんはこれまで日米でさまざまな取材をしてきたが、本書は彼のテーマの一つ「麻薬」に関してのもの。アメリカではここ数年で、大麻の解禁が進み、すでに4州が合法化、18州が非犯罪化した。しかし、日本では大麻解禁論すらなく、その一方で覚せい剤、危険ドラッグによる麻薬汚染が深刻化している。この差はいったいどこからくるのか？ 麻薬大国アメリカの現状、日本で大麻が解禁されない裏事情などを、徹底的にレポートしたのが本書。



■『本物のカジノへ行こう!』（松井政就・著 文春新書）

松井政就氏とは、競馬を通して昔から私と親交があり、週刊誌では私が担当して連載記事をやったことがある。彼はこれまで、カジノ、競馬、宝くじなど、それこそギャンブルと言えるものに深くはまってきた。カジノに関しては、自前で世界中のカジノを回り、さまざまな経験をしてきている。現在、日本ではカジノ解禁に向けてさまざまな動きがあるが、そうしたなかで、彼と必読の1冊をつくってみた。



■『シャープ「企業敗戦」の深層』（中田行彦・著 イースト・プレス）

この3月、ついにシャープがホンハイに買収された。これは日本のものづくりの大きな転換と言える。「液晶のシャープ」と言われた勝ち組企業が、なぜ敗戦にまでに至ったのだろうか？ 今後、日本企業のものづくりはどのようなになるのだろうか？

これを、元シャープの技術者という「当事者」と、経営学者（立命館アジア太平洋大学教授）という「分析者」の二つの観点から描いた。

著者の中田氏とはすでに昨年『シャープ「液晶敗戦」の教訓』（実務教育出版）を出しているが、本書はその第2弾に当たる。グローバル競争と変化への対応を読み間違えた巨大メーカー崩壊の深層に迫った。

